

---

# 終わりになき輪舞曲

雨音結花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

終わりになき輪舞曲

### 【Nコード】

N6191J

### 【作者名】

雨音結花

### 【あらすじ】

どこにでもいる普通の高校生の少年、如月無月。彼には妹の奏がおり、平凡に過ごしていくはずだったが、ある出来事をきっかけに翻弄されていくのであった。

## 第1話（前書き）

この小説を読むにあたり、にゃんこ様執筆作品「守護るべきもの」「終わりなき闘争曲」「終わりなき遊戯曲」「終わりなき淫靡曲」シリーズを読んでから読むことをおすすめします。

この小説は、そのシリーズから派生した番外編ストーリーです。途中の話からあるアニメ2つを織り込んだストーリーになっています。

どんなアニメなのかは読んでのお楽しみです。

## 第1話

????「祢音ねおんっ！」

そう言っつてオレ「如月無月きげつむつき」は身体を起こした。  
すると、オレのベッドの下で眠っつていた妹の「如月奏きさらぎなで」が呟いた。

奏「…どうしたんですか、無月お兄様？祢音っつて言っつていましたが、誰ですか？」

無月「いや、何でもない」

そして翌朝。

オレと奏はいつものように朝食を食べ、水月学園みなつきがくえんへと向かった。

↓水月学園・無月のクラス↓

その日の授業、オレは適当に授業を聞き流しとりあえずノートにとつていた。

そして昼休み。屋上で友達の新田康宏にったやすひろ「安井祐介やすいゆうすけ」「麻上涼子あさがみりょうこ」をまじえて、昼食を摂っつていた。

康宏「…無月、お前さ、最近ばーっとしてるよな？」

無月「別に、なんでもねえよ」

祐介「…ほんとに？じゃあ何で顔を真っ赤にしてるの？」

無月「だから何でもないっつて！」

涼子「…奏さんはなにか、思い当たる節はある？」

奏「…女の子の名前を呟いていました。たしか、祢音と…」

康宏「祢音…？誰だよ、そいつ…？」

無月「だから、オレもよく憶えてねえんだよ」

こんな会話は終わりにしよう。

そう思ったオレは、さっさとその場から離れた。

祢音…。

オレは確かにそう言った。

祢音、そいつは何者なんだろうか？

オレはその日の夜、父さんと母さんに訊いてみた。

無月「なあ、父さん。母さん。祢音ってヤツ、知ってるか？」

日向<sup>ひゅうが</sup>「祢音…？私は聞いたこともない。なあ、桔梗<sup>きぎょう</sup>もそう思うだろう？」

桔梗「ええ。無月、きつとあなたは寝ぼけたのよ。そうに違いないわっ！」

ち、ビシツと指を立てて自慢げに言う母さん。

奏が母さんの後に続いて言う。

奏「ほら、お兄様は少し考えすぎなんですよ。そういうことは早く忘れたほうがいいですよ」

オレは、夕飯を食べてお風呂に入ったあと、布団に入ってまた考えながら眠った。

（無月の夢の中）

無月「う…、ここは…？」

気がつくと、オレは不思議な空間に立ち尽くしていた。

????「お兄ちゃん〜!」

すると、オレの向こう側から女の子の声が聞こえてきた。  
そいつは続けた。

????「…よかった、また会うことができてる…。私<sup>わたし</sup>、お兄ちゃんが  
会いに来てくれるのを待っていたんだよ?」

無月「…?お前、誰だよ?なぜ、オレを知ってる?」

????「…やだなあ!なに言ってるの!私のこと、もしかして忘れ  
ちゃったの…?」

無月「…忘れるもなにも、オレは本当にお前の事を知らないんだよ  
!」

????「…もう、仕方がないなあ。無月お兄ちゃんの為にもう一度  
教えてあげるから、今度はちゃんと憶えてね!私の名前は<sup>ねおん</sup>祢音。祢  
音だよ、今度は絶対に忘れないでよね!」

無月「…ああ、気が向いたらな。ん…?祢音?お前が祢音か?オレ  
を呼んでいたのは?」

祢音「うん。でもね、条件があるの」  
無月「…条件?」

祢音「…私ね、お兄ちゃんが夢を見た時にしか今は会えないんだ」  
無月「…オレにどうしろと?」

祢音「…あのね、私がお兄ちゃんを呼んだのにはね理由があるの。  
その為に呼んだのよ」

無月「…なんだよ、その理由って?」  
祢音「いい?1回しか言わないからよく聞いてね」

無月「…ああ」  
祢音「お兄ちゃんには、『終わらないアリスの物語』を完成させて

ほしいんだ」

無月「…どうすれば、より早く集められる？」  
祢音「残念。私が教えてあげられるのはここまでなんだ。分からないなら、奏ちゃんに手伝ってもらおうといいよ」

奏の名前を聞いた瞬間、オレは耳を疑った。

なぜ、お前が奏のことまで知ってる？

そう思ったオレは、祢音に聞き返した。

無月「なぜお前が、奏のことを知ってる？オレ以外には奏のことを知ってるのは和少ないのに…」

祢音「それは乙女の永遠の秘密だよ。じゃあ私、用があるから今日はこちらまでだね。じゃあね」

そう言うと、祢音はオレと擦れ違うようにして駆け抜けていった。

祢音「…あいつの目的はいったいなんなのか？」

オレや奏を知ってるあいつの目的とはいったいなんだ？

そして、オレは目を覚ましたのだった。

## 第2話に続く

キャスト

如月無月：下野紘しものひろ

如月奏：竹達彩奈たけたつ あやな

如月日向：大塚明夫おおつか あきお

如月桔梗：井上喜久子いのうえ きくこ

新田康宏：新垣樽助しんがきたるすけ

安井祐介：鈴木達央すずき たつひさ

麻上涼子：能登麻美子のの との まみ こ

祢音：後藤麻衣ごとう まい

## 第2話

翌朝。オレ、如月無月は、夕べのことを妹の奏に話した。  
奏は、驚きの表情を見せていた。

奏「…お兄様、それは本当なのですか？」

無月「…ああ。はっきりとこの耳で聞いたよ。祢音は、お前の名を口にした。オレのことも知ってた。理由を聞いたが、それ以上教えてくれなかった。祢音は言ってた。『終わらないアリスの物語を完成させてほしい』ってな。これは、オレたちにしかできないようだ…」

奏「…分かりました、そういうことでしたら私が協力しないわけにはいきません。お兄様、私も協力します。まずは水月学園の図書室から調べてみましょう」

無月「ああ、そうだな…」

とりあえず、オレたちは朝食を食べた後、着替えを済ませて家を出た。

そして、水月学園の図書室に向かった。

〈水月学園・図書室〉

オレたちは、今日は授業を一日休むことにした。  
オレたちは、入口にいた生徒に適当に挨拶をし、図書室の中を散策し始めた。

奏「私はこつちを探しますから、お兄様はそちらを…」  
無月「ああ、わかった」

オレたちは手分けして『終わらないアリスの物語』について調べてみた。

が、そんな資料はどこにも見当たらなかった。

奏「…島の大きな図書館に行ってみましょうか、お兄様」  
無月「そうしよう」

そして、オレたちは学園を出て、水月島みなつきしまの大きな図書館に向かった。

（水月島・図書館）

オレたちは手分けして『終わらないアリスの物語』について、あらゆる検索を使い探してみた。

そんな時、オレたち以外の人間たちの時間がストップした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6191j/>

---

終わりなき輪舞曲

2011年10月6日17時07分発行